

# Australia International Airshow (AVALON Airshow) 2019 参加報告

2019年2月26日（火）～3月3日（日）に、オーストラリアのメルボルン第2空港として利用されているアバロン空港で開催された国際航空ショーに参加し、2017年のときと同様、昨年のJA2018 TOKYOに出展した海外企業および展示支援会社に対し、次回のJA2021等に向けた勧誘活動、業務調整活動を行ったので報告する。

## 1. Australia International Airshow 2019について

本展示会の正式名称は、2019 Australia International Airshow and Aerospace & Defence Expositionであるが、一般にはAVALON Airshowと呼ばれている。開催地であるJetstar、AirAsiaのLCC国際・国内線のメルボルン便が主として就航するメルボルンの南西約50kmにあるアバロン空港にちなみ主催側で呼称している。

この展示会は、Aerospace Australia Limited (AAL) により主催・運営されており、南半球開催の展示会及び航空ショーとして最大級の一つである。この展示会の特徴は、商用、個人向け航空機の展示に加え、オーストラリア軍の全面協力によって軍関連の航空機と車両類が多く展示されている点である。

今回のAVALON Airshowは、1992年に現在のアバロン空港で開催されるようになってから14回目の開催である。

## 2. AVALON Airshow 2019について

### (1) 概要

アバロン空港を使用し屋内展示、航空機の屋外展示、飛行展示の他、滑走路脇には主催者、欧米各社のシャレーが設けられていた。また、屋外展示では、航空機以外にも陸軍の車両類も展示されていた。

AVALON Airshow 2019は、2019年2月26日（火）～3月3日（日）までの6日間にわたり開催され、この内、2月26日（火）～28日（木）までがトレードデイであり、3月1日（金）～3日（日）までがパブリックデイであった。



豪F-35Aと米F-22Aの編隊飛行展示



AVALON Airshowの会場：アバロン空港の位置  
(Googleマップより)



AVALON Airshow展示会場 全体レイアウト（エアショー資料より）

AVALON Airshow 2019の来場者、出展者などに関する記録は、主催者発表によれば以下のとおり。

AVALON Airshow 2019 概要

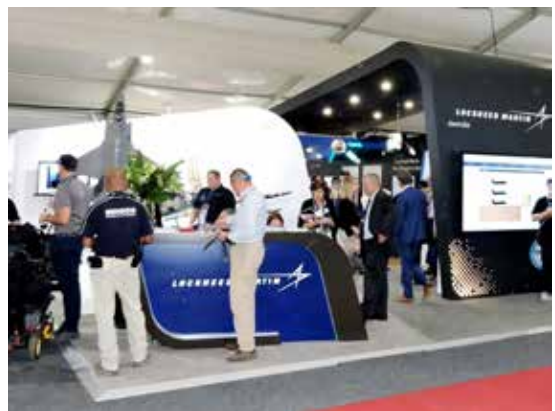
| 項目                | 内訳                              | 数値       |
|-------------------|---------------------------------|----------|
| 来場者<br>37ヶ国       | Trade Day (2/26~28)<br>(3日間)    | 38,952人  |
|                   | Public Day (3/1~3)<br>(3日間)     | 132,878人 |
|                   | 計 (全6日間)                        | 171,830人 |
| 出展者               |                                 | 698社・団体  |
| Delegation (30ヶ国) |                                 | 161団体    |
| 屋外<br>展示機         | Military (参加6ヶ国)                | 94機      |
|                   | Civil / Commercial /<br>Private | 277機     |
|                   | 計                               | 371機     |

(2) 屋内展示

屋内展示場は、会場の中央に大きな3つの仮設テントにより構成される。1つが約4,200

㎡（約40m×約105m）、テント間の接続部に、カフェテリア約300㎡が2ヶ所あり、合計で約13,200㎡となっていた。（屋内展示面積は、JA2018TOKYOと同等規模。）

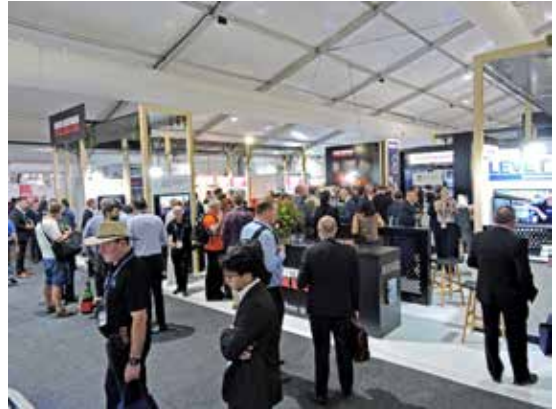
屋内展示場における出展者としては、英米の主要企業の他、豪国防省、州政府などとなっている。米国企業はU.S. パビリオンを構成し、ホール3の2/3を占めるなど、海外企業の展示として一番目立つ存在であった。



Lockheed Martin社の展示



Boeing社の展示



南オーストラリア州の展示

また、オーストラリアの各州政府が各々パビリオンを出展しており、その中に各州の企業が出展するクラスター展示のような形で展示していた。

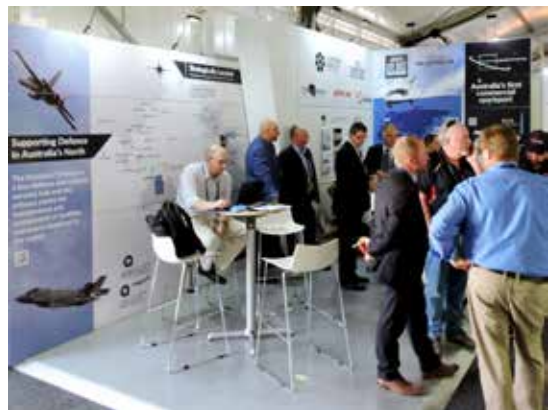
日本からはSJACの他に川崎重工業(株)が出展した。

また、その他の展示としては、KAIA (Korea Aerospace Industries Association) が今年10月に開催予定のSeoul ADEX 2019のPR ブースを出展し、また、今年9月に北京にて開催予定のAviation Expo. China 2019の主催者およびAirshow China 2020の主催者がPRを目的とし出展していた。

加えてSTEM (理数教育) 関連事業として1700名 (主催者発表) が展示会に招待され、主催者がツアーを実施している。

### (3) セミナー・シンポジウム

屋内展示場の外に、Airshow Conference Centerという、会議室が6室の仮設テント会議場を用い2月26日～28日の3日間、主にオーストラリア政府関係機関、団体による36のカンファレンスが行われた (主催者発表)。さらに、前日の25日にはメルボルン市内の別会場で、豪空軍参謀長のフォーラム、防衛産業



ノーザン・テリトリの展示

カンファレンス、オーストラリア宇宙産業カンファレンス、無人機カンファレンス、第18回 オーストラリア国際航空宇宙会議 (AIAC18) など関連イベント、会合が開催された。

展示会場内にもカンファレンス会場、エプロン内にSTEMパビリオンが設置され、連日カンファレンス、セミナーが行われていた。

### (4) 屋外機体展示

展示会場であるアバロン空港のタキシーウェイ、エプロンなどを使用し、欧米豪各社の民間用の航空機を中心とて、371機 (主催者発表) の地上展示があった。この中には、6ヶ

国から94機の軍用機が含まれており、航空自衛隊のC-2輸送機も飛行を含め展示された。地上展示の大部分はオーストラリアで活躍する民間用の各種航空機であり、公共サービス（救難、救急、消火、警戒）、農作業用や個人での移動用のビジネス機、ターボプロップ機、レシプロ（ガソリン、ディーゼル）機、ヘリコプターが展示・営業されていた。

飛行展示では、2018年12月に国内配備となったばかりの豪空軍のF-35A戦闘機がひと

際大きな爆音で連日飛行展示し、米空軍F-22、航空自衛隊C-2輸送機の展示飛行から一般のアクロバットチームの曲技展示や約100年前の複葉機まで各種航空機が飛行を披露した。

エプロン内にドローンアリーナが設置され、ドローンレースが豪陸軍をスポンサーとして、予選（含む夜間デモンストレーション・レース）、本選と実施され、操縦技術を競っていた。



航空自衛隊“C-2”



豪空軍“F-35A”



豪空軍“MQ-4C Triton”



豪陸軍“M1戦車 & CH-47Fヘリ”



豪 海難救助機 “CL-600”



Flying Doctor機 “PC-24”



組立キット機 “RV-10”



消火水上機 “AT-802”

### 3. 所見

#### (1) JA2018 TOKYO出展の海外企業および 展示支援会社へのFollow-Upについて

今回は、JA2018 TOKYO出展の海外企業および展示支援会社に対して、次回JA2021に向けたフォローアップを行うこと等を目的として参加した。

海外企業の展示会担当者は、アジア・太平洋地区の担当者が同一である場合が多く、本展示会がJA2018 TOKYO開催後初のアジア・太平洋地区の大きな展示会であること、またオーストラリアは日本の防衛装備技術の移転



山田防衛政務官のSJAC ブース来訪

先として期待があることを考慮し、海外企業の展示会担当者との一層のネットワーク構築を目論み、さらにAVALON Airshow 2019に来場している展示支援会社（Kallman Worldwide Inc.社他）との、次回JAに向けた情報交換などを目的とした。

今回、SJACは出展者としてPR用ブースを1小間出展、主催者のご厚意により場所がU.S.パビリオンから屋外展示場への通路脇という好位置であったことで、多くの来場者に日本のJAという展示会を告知できた。また多くの方々から片言であっても日本語で話しかけられ日本に好意を寄せるオーストラリア人や日本との緊密な関係を持つ人の多い土地であることが実感された。

特に、展示支援会社（Kallman Worldwide Inc.社、ECM Berlin社）との次回JAに向けた情報交換は有意義なものとなった。

また、SJACブースへは、来場された多数の日本企業及び防衛装備庁の方々の来訪に加え、展示会来賓としてみえた山田防衛政務官及び丸茂航空幕僚長からねぎらいのお言葉を頂き、遠く離れた土地で日本の航空宇宙産業を紹介する活動への激励を受けた。

## (2) 展示会について

会期初日から政府要人が集まり、国を挙げて航空宇宙、防衛の活動を活発にするための展示会であった。グローバル経済の進展によって、オーストラリア内にあった日米の自動車組立工場が新興国へ移ってしまい先進工業の基幹を失いつつあるオーストラリアにとり、航空宇宙や防衛装備の製造は残したい発展させたい重点分野であるとオーストラリアの政府関係者、州関係者や多くの企業人が発言されている。また、そのパートナーとして米国に次いで、日本に大きく期待していることも肌で感じられた。展示会としても米国の

防衛関連企業、オーストラリアの航空宇宙産業、各州の企業誘致担当者が多く出展し、旅客機関係のプレゼンスがほとんどない点パリなどの欧州や、シンガポールの航空ショーとの違いである。オーストラリアの民間航空路線が高密度高頻度の旅客輸送の大市場でない点を反映していると考えられる。

## (3) その他

欧州の有名航空ショーに比較し、AVALON Airshowではオーストラリアの人々にとって航空機は移動用の道具として身近で根付いていることが実感された。ショーへの参加案内として、アクセスの記載に個人用航空機の空港駐機案内が自動車の駐車場案内と同列で紹介されていた。開催初日26日の開催時刻前に多くの単発自家用機が着陸し、初日の午前中は着陸する機体があるまま地上展示されることもあり、飛行機が見たり乗せられたりする存在だけでなく、個人で操縦したり、組立や整備する対象で、トレードデイに一般の個人オーナーが購入目的動機で多く来場している点、パリやファンボローに比較して場内で目立っていた特徴の一つである。オーストラリアのみならず欧米や中国のメーカーが提供する2-4名搭乗の個人向けの移動用や農作業用のレシプロ単発機の組み立てキットや完成機体が数多く展示され、商談が行われている。また飛行訓練学校や自宅ガレージでの組立の相談、個人向けの機体整備相談のブースがあることは、広大な土地に密集せず生活するのに欠かせない航空機の存在を色濃く表していた。

この展示会のトレードデイにSTEM教育とは別にオーストラリア軍が多くの高校生や学生を招待し、担当官が説明・案内することで先進国の軍隊が共通に抱える課題を解決しようとする努力が見えた。高度で複雑なハイテ

ク戦闘を担う優秀な人材を、志願入隊者として少しでも数多く迎えるため、一般企業とりわけIT関連と競争しながら勧誘しなければならない難しさが垣間見えた。この視点は高度な防衛装備品やハイテクの旅客機、宇宙機器を扱う日本の航空宇宙産業あるいは自衛隊や航空運送業にとっても決して他人事ではない。他産業と比べられ、その上で航空・宇宙、

防衛へ有能な人材が集まるための努力を業界が継続することが、日本の競争力の根幹となり基盤を強固にすることに繋がると考えられるからである。

このようにオーストラリアはそれぞれの特徴を生かして航空宇宙の産業推進に取り組んでいたことを最後に紹介したい。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際航空宇宙展事務局 部長 櫻井 浩己〕